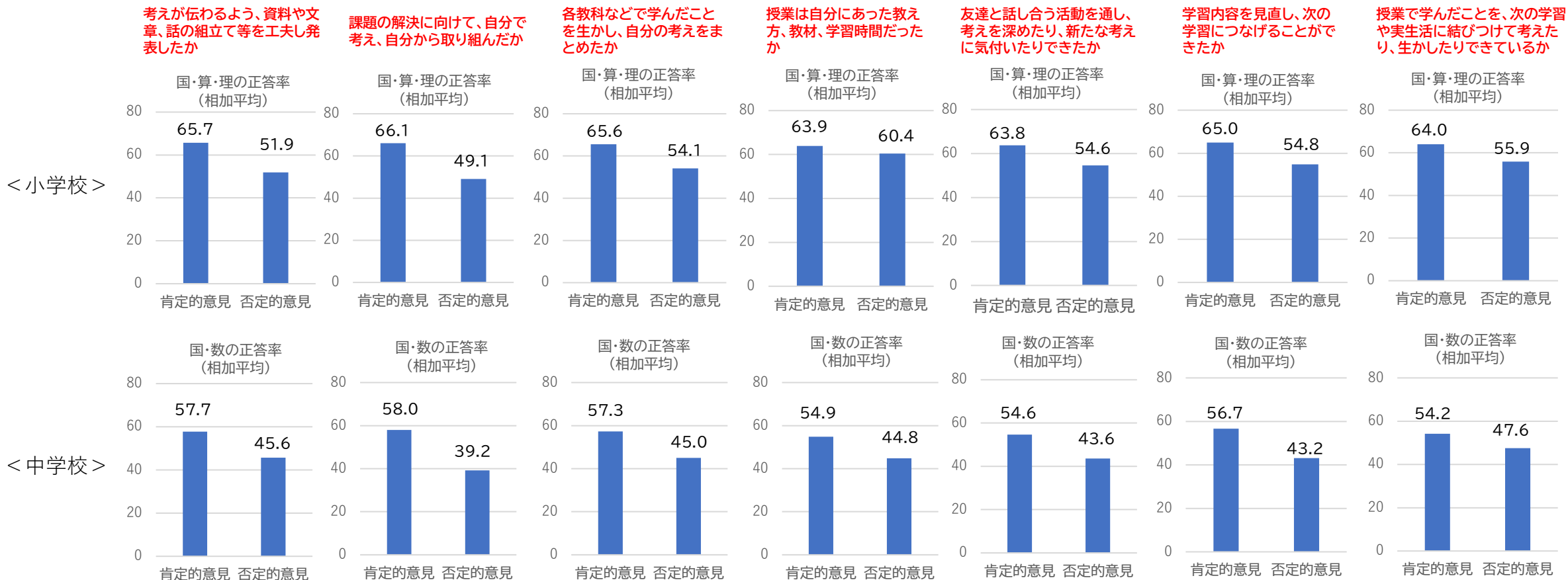


奈良市教育委員会 「個別最適な学び」「協働的な学び」を目指した授業改善

○ R7年度「全国学力・学習状況調査」児童生徒質問－教科クロス集計より



○ 結果の分析・検証

以上の結果から、主体的に課題に取り組んだり友達と考えを深めたと感じたりしている児童生徒は、そう感じていない児童生徒より正答率が高い傾向にある。本市では、子どもたちが主体的・対話的に考え学べるように、教員と指導主事がともに研究するなどして、問題解決や探究の視点を取り入れた授業となるよう取組を進めている。

奈良市教育委員会 「個別最適な学び」「協働的な学び」を目指した授業改善

○ 本市の取組み

➤ 指導主事伴走型の授業づくり

多様性を尊重し、自立した学習者を育てるため、指導主事派遣事業において、指導主事と教員が複数回にわたって協議しながら授業改善に取り組んでいる。カリキュラムの工夫やデジタル基盤を活かした学びを指導主事と教員がともに研究し、個別最適な学びと協働的な学びの充実を図っている。



➤ 教職員の探究的な学びを取り入れた研修

- 初任者研修や2年次研修において「教科探究研修」を取り入れ、特定の教科についてより深く学ぶことで、教職に求められる専門的な知識や理念を習得し、教科指導の技能を高める。さらに、教職員自身が探究的な学びを体験することで、探究的な学習への理解を一層深める。
- オーダーメイド型教育実践研修では、参加教員自身が探究テーマを設定し、指導主事伴走型で実践と研究結果の共有を行う。

➤ 文部科学省リーディングDX事業への参加

- R6年度より若草中学校区(中学校1校、小学校3校)にて、「個別最適な学び」、「協働的な学び」の一体的な充実を図ることを目的とした「文部科学省リーディングDX事業」に参加し、指導主事の伴走のもと先進地視察や授業改善を実施。
- 参加校が授業公開を通して、事例の創出等を行い、市立学校をリードしていく役割を担う。

